



やなぎっ子

さいたま市立片柳小学校

TEL 048-683-3174

FAX 048-683-8971

<http://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/>

五感を磨く ～月の桂も 折るばかり～

校長 萩原 哲哉

天候にも恵まれ、多くの御来賓、保護者の方々等の御声援をいただき、令和初の運動会が9月28日(土)、盛大に行われました。子どもたちは連日真剣に練習を行い、どの学年も「フルパワー」「正々堂々」、立派な姿を御覧いただけたのではないかと、思います。各御家庭には様々な御準備等、大変お世話になりました。また地域の方々、PTA、おやじの会、交通安全協会の方々等、多くの方のお力添えを賜り、誠にありがとうございました。御近隣の方々には放送・音楽等でお騒がせをいたし、大変申し訳ございませんでした。御理解・御協力に、心より感謝申し上げます。

さて、運動会も終わり、吹く風も涼しげになりました。秋の風を「色なき風」と言います。無色透明で華やかな色も彩りもない風、という意味で、中国で秋風を「素風」と呼んでいたのを、日本の歌語に直したものだそうです。「華やぎは 色なき風の中にあり (高橋将夫)」

秋の澄んだ空気は、美しい夜空を見せてくれます。11日(金)は十三夜。9月の十五夜と共に、両方のお月見をすることが良しとされ、片方だけを見ることを「片見月」として、縁起の悪いこととする説もあります。いずれにしても、夜空が美しく見える季節ならではのお話です。

その「お月様」は、本校の校歌三番の歌詞にも登場します。

「月の桂も 折るばかり」・・・中国の伝説では、「桂の木」は、月に生えている木。なかなか自分のものにできないものの例えに使われます。それ(月の桂)を「折る(手に入れる)」わけですので、「月の桂を折る」とは、出世したり、難しい試験に合格したり(中国には「科挙」という試験がありました。)する、という意味を持ちます。

以前、ある山奥を訪ねた際、砂糖を焦がしたような甘みの混ざった、よい香りに出会いました。香りの正体もわからないまま、足元ではハート型の落葉を、さくさく踏みしめ歩いていました。

ふと、ものを落としてしゃがんだ時、先程から漂っていた香りと、ハート型の葉とが、はじめてつながりました。そのハート型の葉が、甘辛い香りの元だったのです。新しい「発見」です。実はこれこそが、「桂の木(の葉)」だったのです。(桂の葉はハート型で、甘辛い香りがします。)

「発見」とは、頭の中で別々に存在していたものが、つながること。

人にはものを感じ取る感覚が五つあり、「五感」と呼ばれます。上で取り上げた「見る(視覚)」「かぐ(嗅覚)」「音を聴く(聴覚)」以外に、風を涼しく感じる「触覚(しょっかく)」、食べ物を味わう「味覚(みかく)」があります。

令和はじめての秋。この五感を研ぎ澄ませ、「月の桂も 折るばかり」に、物事を感じ取ったり発見したりする経験を、大切にしてほしいと願っています。